

目録業務について

東北大学附属図書館
図書情報係
小野寺 毅

図書館における目録とは

目録

<書誌情報>

資料を特定する情報（タイトル、著者名等）

<所蔵情報>

資料の所在情報（配架場所、資料番号等）

業務の位置づけ

1. 受入業務

発注 → 納品 → 検収 → 支払 → 資産登録

2. 目録業務

書誌・所蔵登録 → 分類・請求記号ラベル装備

3. 閲覧業務

その他装備 → 配架

蔵書目録と総合目録

- ◆ 蔵書目録：各図書館毎に作成する目録
- ◆ 総合目録：複数の図書館の蔵書目録を統合した目録
 - ➔ 総合目録データベース (NII)
 - WorldCat (OCLC)

総合目録データベース

- ◆運営：NII（国立情報学研究所）
- ◆参加機関：1,336館（2021年3月末）
- ◆システム：NACSIS-CAT
- ◆オンライン共同分担入力方式
- ◆典拠コントロール

オンライン共同分担入力方式

- ◆ 「所蔵」は各館独自の情報。
「書誌」は図書館による違いはない。
➡ 「書誌」の作成は分担・共有
- ◆ 書誌がないときは
 - 参加館の1つが、NACSIS-CATに書誌を作成・登録
 - 作成・登録された書誌は、ほかの参加館も使用できる➡ 作成館以外の書誌作成負担が軽減

書誌作成時のルール

◆ 目録規則

- 日本目録規則1987年改訂3版
- 英米目録規則第2版改訂版

◆ 入力基準

- 目録情報の基準
- コーディングマニュアル

共同・分担目録作業の手順

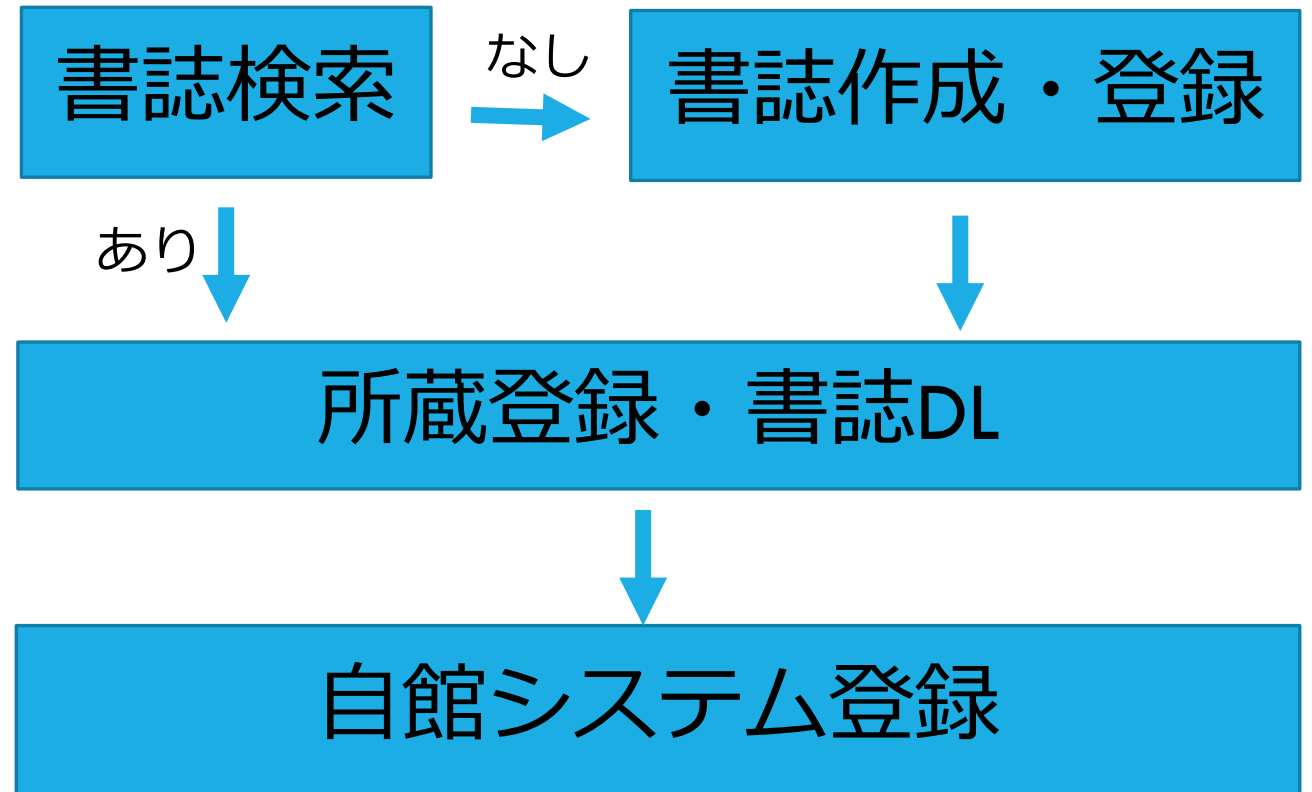
NACSIS-CAT

総合目録データベース

- ・ 図書書誌 図書所蔵
- ・ 雑誌書誌 雑誌所蔵
- ・ 著者名典拠
- ・ 統一書名典拠

参照ファイル

JP/MARC, TRC/MARC, US/MARC



分類作業

◆目的：館内での配置場所を決める

◆請求記号

分類記号 + 図書記号 + 補助記号

◆分類表

- 日本十進分類法 (NDC)
- 国立国会図書館分類法 (NDLC) など

請求記号ラベルの例

501.1
126
2020

昨今の目録に関する流れ①

◆資料等の変化

- 資料の多様化
- 目録の作成・提供環境のオンライン化
- 国際的な書誌データ流通の容易化

昨今の目録に関する流れ②

- ◆ 書誌レコードの機能要件（FRBR）※
※後にFRAD, FRSADと統合し、「IFLA LRM」へ
- ◆ 新しい目録規則
 - RDA（Resource Description and Access）
 - 日本目録規則2018年版

昨今の目録に関する流れ③

◆CAT2020

- 外部機関作成データの活用と自動リンク形成
- 書誌構造リンク形成作業の任意化
- リッチな書誌の提供
- 連絡を必要とする書誌調整の中止
- 書誌の並立を許容

等々

今後の動き

◆ NACSIS-CAT/ILLシステムが変わる！！

大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新
学術資料のデジタル化に対応した目録所在情報サービスを
2022年から順次運用開始

<https://www.nii.ac.jp/news/release/2021/0617.html>

参考資料・URL

- ◆ 国立情報学研究所(NII)目録所在情報サービス

<https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL>

セルフラーニング教材も掲載されています。

- ◆ これからの学術情報システム構築検討委員会各種ドキュメント

<https://contents.nii.ac.jp/korekara/documents>

CAT2020関係の資料等。

- ◆ 日本目録規則2018年版

<https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018/tabid/787/Default.aspx>